【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】令和6年8月2日(2024.8.2)

【国際公開番号】WO2023/090245
【出願番号】特願2023-561558(P2023-561558)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｑ　1/32(2006.01)
Ｈ０１Ｑ　1/22(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｑ　1/32　　Ａ
Ｈ０１Ｑ　1/22　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】令和6年4月30日(2024.4.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１誘電体板と、
前記第１誘電体板に対面する第２誘電体板と、
前記第１誘電体板と前記第２誘電体板との間に配置された中間膜と、
前記第１誘電体板と前記第２誘電体板との間に配置された導体と、
前記中間膜に対して前記第１誘電体板とは反対側に配置され、前記中間膜の一部と前記第２誘電体板の一部の少なくとも一方を前記導体との間に挟む給電部と、
前記給電部に接続された第１伝送線路と、を備え、
前記給電部は、前記第１誘電体板の厚さよりも薄い間隔で前記導体と電磁結合する、給電構造。
【請求項２】
前記中間膜は、第１中間膜と第２中間膜を含み、
前記導体は、前記第１中間膜と前記第２中間膜との間に配置された、請求項１に記載の給電構造。
【請求項３】
前記導体の端部は、前記中間膜の端部よりも内側に位置する、請求項１又は２に記載の給電構造。
【請求項４】
前記第２誘電体板は、凹部を有し、
前記給電部は、前記凹部に配置された、請求項１又は２に記載の給電構造。
【請求項５】
前記凹部は、前記第２誘電体板が貫通する部分を含む、請求項４に記載の給電構造。
【請求項６】
前記給電部は、前記中間膜と接触する、請求項５に記載の給電構造。
【請求項７】
前記凹部は、封止部によって封止された、請求項４に記載の給電構造。
【請求項８】
前記封止部は、
前記給電部を除く箇所に設けられ、電磁波を遮蔽するシールドと、

前記シールドに接触する誘電体と、を含む、請求項７に記載の給電構造。
【請求項９】
前記第１伝送線路は、グランド層を含み、
前記シールドは、前記グランド層から離れている、請求項８に記載の給電構造。
【請求項１０】
前記凹部の側面は、前記第２誘電体板の平面視において、前記第２誘電体板の端辺から５ｍｍ以上離れている、請求項４に記載の給電構造。
【請求項１１】
前記第１伝送線路は、前記凹部において屈曲可能なフレキシブルな部分を含む、請求項４に記載の給電構造。
【請求項１２】
前記給電部は、前記フレキシブルな部分よりも硬質なリジッド基板を含む、請求項１１に記載の給電構造。
【請求項１３】
前記第１伝送線路は、前記第２誘電体板の厚さ方向と略直交する方向に折り返す部分を含む、請求項１１に記載の給電構造。
【請求項１４】
前記給電部は、前記第２誘電体板の厚さ方向と略平行な方向に折り返す部分を含む、請求項１１に記載の給電構造。
【請求項１５】
前記第１伝送線路は、伝送ケーブルを含み、
前記給電部は、前記伝送ケーブルの一端が接続されたコネクタが取り付けられたリジッド基板を含む、請求項４に記載の給電構造。
【請求項１６】
前記給電部は、前記リジッド基板に取り付けられたアクティブ素子を含む、請求項１５に記載の給電構造。
【請求項１７】
前記凹部は、前記第２誘電体板の平面視において、±４５°回転範囲において、回転対称とならない形状である、請求項４に記載の給電構造。
【請求項１８】
第２伝送線路を備え、
前記導体は、前記第２伝送線路の信号線である、請求項１又は２に記載の給電構造。
【請求項１９】
前記第１誘電体板と前記第２誘電体板との間に配置され、前記第２伝送線路に電気的に接続されたアンテナを備える、請求項１８に記載の給電構造。
【請求項２０】
前記第１誘電体板および前記第２誘電体板のうちの一方又は両方は、ガラス板である、請求項１又は２に記載の給電構造。
【請求項２１】
請求項２０に記載の給電構造を備えた板状体。
【請求項２２】
請求項２０に記載の給電構造を備えた窓ガラス。
【請求項２３】
車両のウィンドシールド用の請求項２２に記載の窓ガラス。